



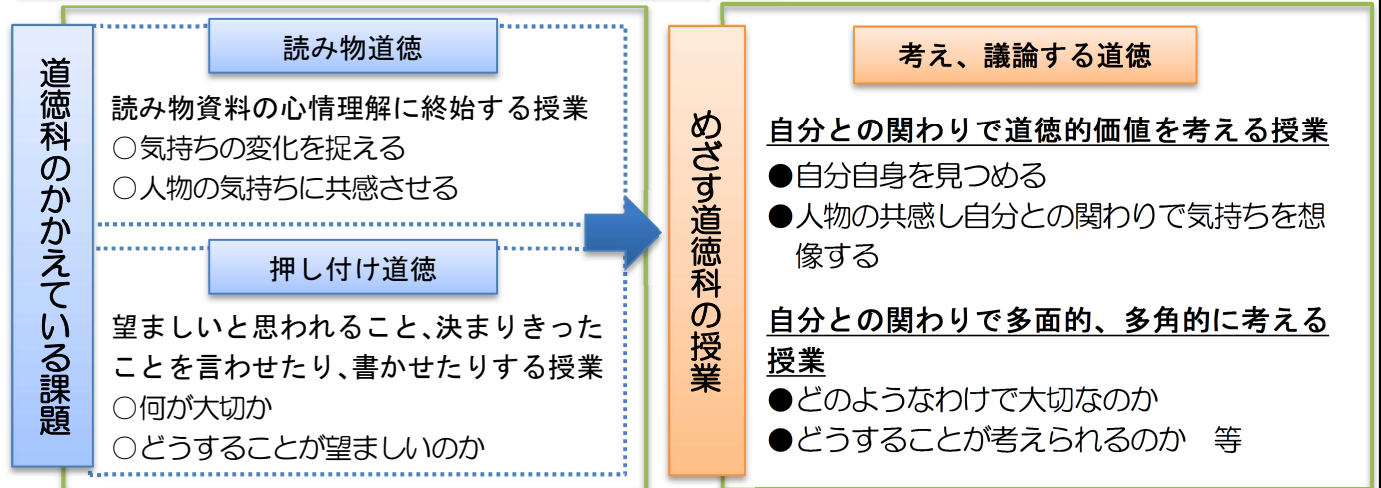
# 確かな学力の向上をめざして【7月】

## 「特別の教科 道徳」の充実を図るために

「特別の教科 道徳」が全面実施となりました。答えが一つではない道徳的課題を児童生徒が自分自身の問題と捉え、向き合う「考え、議論する道徳」の実現が求められています。



### 考え、議論する道徳授業の構想



- 主体的な学び・・・児童生徒が真剣に考えること
- 対話的な学び・・・児童生徒が共に語り合うこと
- 深い学び・・・児童生徒が生き方について考えを深めること

児童生徒が主体的に深く考えるようになるためには?! → 考える必然性のある発問づくりや児童生徒が本音で語り合える学級集団づくりが大切



### 「特別の教科 道徳」の評価の在り方

子どもたちは「特別の教科 道徳」で、道徳的諸価値についての理解を基に、自己の（人間としての）生き方についての考えを深める学習をしていきます。その学習過程で見られる子どもの2つのポイントについて見取り、評価しましょう。



- ① 道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中でどう深めているか。
- ② 児童生徒が、一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているか。



### 大切なのは「指導と評価の一体化」

評価について、学習指導要領「第3章 特別の教科 道徳 第3の4」に、次のように示されています。

「児童（生徒）の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。ただし、数値などによる評価は行わないものとする」

学習における評価とは、

児童生徒にとっては

自らの成長を実感し意欲の向上につなげていくもの

教師にとっては

指導の目標や計画、指導方法の改善・充実に取り組むための資料となるもの

授業の効果を上げるために

### 指導と評価の一体化

子どもの姿から、教師自らの指導を評価し、その評価を授業の中で更なる指導に生かすことが、道徳性を養う指導の改善につながります。

子ども達にとって、考えたくなる、友達と話したくなる、発見がある道徳科の授業の実現に向けて取り組んでいきましょう。「鳥取県学校教育のめざすもの」も参考にしてください。

